

専門分野・基礎看護学 授業計画

授業科目及び時間数	フィジカルアセスメント 1単位 30時間		
開講時期	1年次 前期		
担当教員	萱場健雄	実務経験	有
<p><科目のねらい> この科目では、フィジカルアセスメント意義と方法、また身体機能を正しく観察・判断するための技術を身につけることをねらいとする。医療の現場は多様化・高度化し、看護師が行うフィジカルアセスメントが重要な役割を担う。患者を正しく診ることに向けて正しい知識と技術、判断力を身につけ、対象の状態を包括的に把握・アセスメントし、看護実践に活用できる能力を養う。</p> <p><到達目標> 1. 身体の問題を明らかにするために、全身の状態を系統別アセスメントできる。</p>			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. フィジカルアセスメント総論 1) 問診・視診・触診・打診・聴診	講義	
2回目	1. 身体計測 1) 身長・体重・胸囲・腹囲 2. バイタルサインとは	講義・演習	
3回目	1. バイタルサイン 1) 体温・脈拍・血圧・呼吸	講義・演習	
4回目	1. バイタルサイン測定	演習	
5回目	1. 呼吸器系のフィジカルアセスメント	講義・演習	
6回目	1. 呼吸器系の観察	演習	
7回目	1. 循環器系のフィジカルアセスメント	講義・演習	
8回目	1. 循環器系の観察	演習	
9回目	1. バイタルサインの技術チェック	演習	
10回目	1. 腹部のフィジカルアセスメント	講義・演習	
11回目	1. 脳・神経系のフィジカルアセスメント	講義・演習	
12回目	1. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント	講義・演習	
13回目	1. 頭頸部・乳房と腋窩・直腸・肛門のフィジカルアセスメント	講義・演習	
14回目	1. 事例をアセスメントする	演習・グループワーク	
15回目	終了試験		
評価方法	事前課題 20%・筆記試験 80%		
受講生に対するメッセージ	本科目は基礎看護学及び臨地実習の基礎となる科目である。既習の形態機能学、病態治療論などの知識と併せて理解を深めてほしい。また講義内容は広範囲であり、予習・復習を欠かさず行うことが必要である。技術習得に向けては繰り返しの練習が求められる。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア		
参考書	はじめてのフィジカルアセスメント第2版 メヂカルフレンド社		